

# 「戦後の日本同盟基督教団」を特徴づけたもの

1998年9月 吉持 章

序・ 戦後の同盟教団を特徴づけたものを十二に絞って取り上げて見る

## 1・ 宣教団体との協力

1949年9月の日本同盟基督教団再建創立総会以来、TEAM宣教師との宣教協力が再確認され、49、50年と急速に宣教師の数が増加に関東圏、北陸、青森等に積極的な開拓伝道が展開され、1950年には在日スエーデン基督教団宣教団が協力に加わり東海地区の開拓が進められ、後スイスアライアンス、ミッションも同盟に加わり、佐渡の開拓が進められ、1970年代までの開拓伝道はほとんど協力宣教団の手によって進められたものであり、我が教団の今日の祝福を語る時、これら宣教団の献身的なお働きを決して忘れることが出来ない。

## 2・ いのちのことば社と文書伝道

1950年にTEAMの働きの一環として発足した文書伝道（いのちのことば社）は同盟教団の信徒育成と教会形成に大きな祝福をもたらした。またこれと平行して一時期やはりTEAMの働きの一環として映画伝道も行なわれ同盟の歴史に豊かな祝福をもたらした。初期に於ける太平洋放送、世の光にもTEAMからの大きな支援助と協力があり、日本宣教に大きく寄与した。

## 3・ 同盟聖書学院の設置

1950年にTEAM財的バックアップを得て、聖書学院が設置され、1955年には超教派神学校として日本クリスチャンカレッジに発展し、1966年には、学校法人東京キリスト教短期大学になり、1980年の三校合同をもって経営母体はTEAM同盟単独の手を離れたが、同盟教団の今日を語る時この神学教育がもたらした祝福は量り知れないものがある。

## 4・ キャンプ伝道の祝福

1952年にTEAM宣教師ショーン師によって松原湖バイブルキャンプが始められ、その後、浜名湖、柏崎、青森と各地にキャンプ場が開設され、それぞれが地域に超教派的な祝福をもたらし、中でも松原湖バイブルキャンプを通して入信や献身を決意する人々が年々おこされ、諸教会に大きな霊的祝福をもたらして来た。

## 5・ 国外宣教の開始（世の光1965年8月・第193号）（国外宣教1966年5月・第2号、1968年10月・第3号）

1964年に二人の牧師の発議によって教団に国外宣教部が設置され、まず松田政一理事長を台湾に安藤伸市副理事長を沖縄視察に送りました。それを契機に具体的な活動が始まった。

## 6・ 計画伝道の実施（世の光1966年6月・第203号）（国外宣教1966年5月・第2号）

1966年の創立75周年の大会後、早天祈祷会で一人の牧師が早天祈祷会の勧めで計画伝道の必要を訴え、それを契機に第一次五ヵ年計画がスタートした。

## 7・ ブロック制の実施（世の光1967年5月・第214号）

1967年当時伝道局長であられた木下牧師の提案により、教区ではなく、もっと身近な教会との具体的な伝道協力が必要であるとの提案からブロック制が制定され、これが地方教会の我ら意識を大いに盛り上げ各地の宣教が活気ついて行った。

#### 8・ 教団役員の任期と定年制の導入 (註1976年5月・第309号、3頁)

1976年教団のリーダーシップを老化させずに若いリーダーを育成するには役員  
の任期が必要であり、上限年を満65歳にしてはと言うことが検討され、現制度が  
実務的にスタートした。このことは教団の若いリーダーを育てる面で、大きな前進  
であったが、今後は更に若いリーダーの育成が必要となるのではないだろうか。

#### 9・ 良きリーダーたちの指導

戦後半世紀の同盟教団の成長の祝福を見る時、そこで大きな役割を果たされたのが  
各時代のリーダーであったが特に安藤伸市師のヴィジョンと暖かい人柄から来る優  
れた指導力に負うこと大であったことを明記したい。この時期安藤先生を中心にJ  
P C. J E A. J F A、ケジック、ピリーグラハムクルセード等幅広い超教派宣教  
のキーパーソンとして内外共に大きな影響を与えて来られたが、同盟教団は最も大  
きくその恩寵にあづかって来た。

#### 10・ 三者合議の教会政治 (註1967年2月・第211号)

戦後同盟の諸活動が局部活動、ブロック活動、世界宣教、国内宣教、その他教団人  
事の交流等がよどむことなく順調な成長をとげ続けてこられた背景には、その基本  
に、三者合議に象徴される民主的な教会会議の話し合い精神が尊重されて来たこと  
にあると思われる。今後の教団運営においてもこの基調を大切にしつつ、更なる改  
善に取り組んで頂きたいと明日のリーダーであられる皆さんに期待している。

#### 11・ 国外ミッションからの経済自立 (註1967年2月・第211号)

1967年からミッションからの経済援助を自発的におことわりして、教団として  
の経済自立を決断し、協力宣教団体との協力関係を金銭抜きの五分五分の立場で協  
力し合う道を選択したことであり、これが今日の同盟教団の自立精神を築く出発点  
となったことを明記しておきたい。このことはまた我々が行なう国外宣教に於ける  
現地教会との関係に於いても常に留意すべき原則だと思います。

#### 12・ 関西への挑戦

1968年、特に1971年～1974年の3月までは毎月1回浜松から大阪に通  
って関西在住の同盟出身クリスチャンの祈祷会を持ち、同盟教団の関西への進出を  
折り合った。当時TEAMの宣教師が少しずつ関西で宣教を開始していたが、いず  
れも単立指向の強い群れであった。しかしこの月に一度の祈祷会が核になって高槻  
、茨木、蛍ヶ池、生駒、松原の群れが同盟への関心を持ち、1974年に布施師が  
高槻へ75年に吉持茨木、馬場松原、町川蛍ヶ池に迎えられ一挙に関西ブロックが  
成立し同盟の西への宣教が開かれた。

結び この他に特記すべきは、戦後同盟は未伝地宣教にこだわらず、財源の供給源と  
なる拠点開拓をして、その周辺に衛星的に未伝地宣教に取り組む実質路線を選択し  
たことも歴史評価として記しておきたい。